

TAOISM
精神エリア

子々孫々

命と意思を繋ぐということ





「形あるもの(お金や家)」を
残す準備はしてきた。

漠然とした不安。
目に見えないものを、
どう残せばいいのか分からない。

「でも……本当に
これだけでいいのか？
お金だけ残しても、
争いになるんじゃないか？」

「血やお金を
繋ぐだけでは、
何も残らん!」

「えっ…じゃあ、
何を…?」

「子々孫々とは何か。
単に血が繋がることでは
ありません。」

残すべきは、「繋ぐ意思」である。

子々孫々の本質

「ここに本質があります。
正しいものを、正しく繋ぐ。
これに尽きます。」

意思が
繋がること

価値観が
繋がること

命と役割を守り、
相継共奉（継ぎ続けていくこと）

在り方が
繋がること

錯覚：人は単体で
存在しているのではない。



現実：流れの中に
存在している。


「時間を越えた責任」




「過去から受け取り、未来へ渡す。
この連続の中に自分がいることを
理解する。
これがすべての起点です。」

なぜ「繋ぐ意思」が必要なのか？

意図なき放置

1  価値観は【風化する】

2  ルールは【曖昧になる】

3  関係は【歪む】

TAOISMの設計



繋ぐための【意図】を持つ



継続するための【仕組み】を作る



全体を守るための【調和】を生む

感情では続かない。構造がなければ継続しない。

「相互保全」という理屈



全体を守るための調和。

監視ではない。
支配でもない。

「守られているかを見合うこと。
これがTAOISMが説く
相互保全です。」

全体を守るため
の調和。

実践：では、どう動くか。



1
自分を整える

2
仕組みを残す

3
関係性を整える

「よし、一つずつ
クリアしていくぞ!」

第1の修行：自分を整える

Guide

「どれだけ立派な言葉や仕組みを残しても、自分がズレていけば、すべては歪みます。自分が正しくあること、これがすべての起点です。」

「自分の姿勢、
行動、判断……
まずはここからか。」

✓ 言動を一致させる

✓ 判断の軸を持つ

✓ 日々の選択を磨く

第2の修行：仕組みを残す(ルール)

「曖昧にしないこと。」



【運用のルール】
どう資産を扱うのか



【保全のルール】
何を守るのか・何を捨てるのか



【分配のルール】
どう判断するのか

構造化することで、初めて「意思」が形として機能する。

第3の修行：関係性を整える

- 対話をする
- 価値観を共有する
- ズレを修正する

「一度作って終わりではない。
日々の関係性のメンテナンスこそが、
時間を超える鍵となる。」



気づき：あなたは命を消費していないか。

自分は繋がれてきた存在であることを、忘れていないだろうか。

今の自分は、誰かの積み重ねの上にある。

人は慢心する。
自分一人で成り立っていると錯覚する。
しかし現実が違う。繋がりの中で生かされている。



「では問う。
自分は次に何を残すのか。
繋ぐ準備はできているのか。」

「もう迷わない。
私が『正しい起点』になる。」

子々孫々とは、
今この瞬間の積み重ねである。